

令和6年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動概要
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性地域社会参画部門（個人）	福岡県	みやま市	徳永 順子	2002年に農業委員となり、2016年に福岡県内で女性として2番目となる農業委員会会長に就任。遊休農地を解消するため、景観作物である菜の花栽培を推進、その菜の花を利用した「菜の花オイル」を地元J Aへ働きかけて開発。また、2013年には市の環境審議会委員に就任し、生ごみをメタン発酵するバイオマスセンター「ルフラン」（2018年建設）で生成される液肥の農業への活用を進め、資源循環のまちづくりに寄与。さらに、2022年からは、土地改良区理事に就任し、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用して、全国屈指の約60ヘクタールの大規模区画整備に取り組み、地元特産品「山川みかん」の産地承継に尽力。
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性地域社会参画部門（組織）	栃木県	大田原市	大田原市農業委員会 （代表 荒井 一夫）	大田原市農業委員会では、地域農業の発展と女性農業者の社会参画の推進に向け、2021年に女性農業委員で組織する「チームあゆみ」を結成し、現在6名で活動している。初心者向けの農機具講習会やSNSを活用した農業経営スキルアップ講座、農業女子との意見交換会など、女性農業委員ならではの視点でイベントを企画・開催し、男女の差なく多様な意見や価値観を尊重する意識の醸成、女性が参画しやすい環境づくりに取り組んできた。このような「チームあゆみ」の活動をアピールするとともに、女性団体への農業委員候補者推薦の働きかけを行ったことで、女性農業委員の登用数は着実に増加しており、大田原市農業委員会全体の活性化も図られている。
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性活躍経営体部門	青森県	三戸町	農業生産法人 株式会社 よしだや （代表 吉田 清華）	にんにくに特化し生産・加工・販売・飲食店経営まで手がけている農業法人である。2002年に創業、2007年に法人化し、2018年には現社名に変更し代表取締役吉田清華氏が就任した。自身の出産・育児の経験から、1時間単位で取得できる休暇制度や短時間勤務制度、育児介護休業制度を整備するとともに、作業を機械化し効率的な作業環境を整備したり、研修による人材育成などにも取り組んできた結果、従業員の約7割が女性となっている。また、農福連携にも取り組み、それぞれの特性に合わせて個々の能力が発揮される職場環境をつくっている。代表は青森県農業経営士にも認定され地域農業を牽引する存在となっている。
最優秀賞	農林水産大臣賞	若手女性チャレンジ部門	栃木県	那珂川町	小林 千歩	非農家から大規模米農家に嫁ぎ、結婚当初は子育てに専念していたが、3人目の子供の認定こども園の入園を機にいちご栽培を開始。「完熟にこだわったおいしいいちごを消費者に直接届けたい」という思いからインターネット販売を積極的に導入することで、売上を大幅に伸ばした。また、近隣保育園のいちご狩りの圃場提供や中学生の職業体験受け入れを行い、農業の魅力を次世代に伝える活動にも積極的に取り組んでいる。小林氏自身でも県主催の女性農業者アグリビジネスセミナーや交流会に参加するほか、自らアポイントをとり先進農業者を訪問するなど、積極的に知識・情報を収集し、経営マネジメントスキルの向上や、経営の見直し改善につなげている。

令和6年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動概要
優秀賞	経営局長賞	女性地域社会参画部門（個人）	埼玉県	秩父市	横田 友	<p>義父の農業経営を継承するため、秩父市栃谷で就農した。2004年に秩父市初の女性農業委員に就任し、2006年からは県女性農業委員の仲間づくりのため女性農業委員協議会の設立に尽力した。現在は、全国農業委員会女性協議会会長、埼玉県女性農業委員協議会会長、秩父市農業委員会会長等の要職を兼任している。地域では、遊休農地解消に積極的に取り組む他、栃谷ふるさとづくりの会事務局長として都市住民との交流や農村の景観形成、ヘアリーベッチによる土づくり等精力的に活動し、農業委員の活動を含めた年間の活動日数は300日を超える。更に、女性農業委員登用推進活動を積極的に行い、秩父市農業委員の女性委員割合を約3割にまで引き上げた。</p>
優秀賞	経営局長賞	女性地域社会参画部門（組織）	福井県	大野市	公益社団法人 大野市シルバー人材センター (代表 小野田 理夫)	<p>大野市シルバー人材センター（以下、大野市SC）では、1996年より作業請負等以外に大野市SC会員自らが経営を担う独自事業に力を入れており、農村地域の立地を生かし、農業生産から加工、販売まで13の独自事業で6次産業化に取り組んでいる。6次産業化分野に参画する女性は7割で、生産面はもちろんのこと加工や販売など幅広い分野を担っており、女性の力が原動力となっている。道の駅内テナントへのテイクアウト専門の飲食店出店や、街歩きグルメでの新商品開発にも積極的に取組んだ結果、独自事業の販売金額は、令和元年以降5年連続して全国1位となり、令和5年度は6,678万円（うち6次産業化関連6,468万円）となった。この大野市SCの取り組みは、女性・高齢者の豊富な経験や生産・加工技術を生かし、やりがいのある場づくりとなっていると共に、大野市農業の活性化にも貢献している。</p>
優秀賞	経営局長賞	女性活躍経営体部門	徳島県	藍住町	株式会社 カネイファーム (代表 矢野 正英)	<p>矢野正英代表は水耕レタス栽培を主力に、販売会社や直営レストラン、福祉事業所を設立し積極的に事業展開している。妻の望美取締役は看護師の経験を活かし、女性を中心とした従業員を雇用している。また、代表が運営する福祉事業所の利用者を（株）カネイファームに派遣するといった農福連携に取り組むとともに、（株）カネイファームに外国人技能実習生を受入れ、誰もが働きやすい環境整備と生産体制のシステム化に取り組んだ。「女性が働くためには、子育てとの両立が不可欠」という思いで、パート職員を正社員にするため、短時間正社員や家族休の導入など、女性目線で働きやすい労働環境を整備した。また、望美氏は、看護現場の管理体制を農業分野に応用することで、生産体制をシステム化し、定植率、生育状況、廃棄率、責任者がスマートフォンでも分かるようにしたと同時に、年間を通じてグラフ化・データ化し、品質管理の「見える化」を進めている。</p>
優秀賞	経営局長賞	若手女性チャレンジ部門	大分県	豊後大野市	和田 梢	<p>農事組合法人の解散危機を乗り越え、2018年に大分県内の集落営農法人で初の女性代表者として就任。以来、オリジナル米袋の作成やSNSを活用した情報発信、ふるさと納税返礼品の提供など革新的な取り組みで法人を再生させ、地域の農地を守るという使命感のもと、水田オーナー制度の導入やもちつき体験の開催など、都市部との交流を促進し、地域の活性化に大きく貢献。さらに先を見据えた農業改革への挑戦として、スマート農業の導入、ウイスキー用麦の栽培委託、もち麦マカロンの商品化等新たな地域農業の発展に向けた取り組みも積極的に行っている。</p>
優秀賞	経営局長賞	地域子育て支援部門	滋賀県	長浜市	ONE SLASH株式会社 (代表 清水 広行)	<p>地元の幼馴染5人が「RICE IS COMEDY(米作りは喜劇だ)」をコンセプトに、琵琶湖最北端に位置する滋賀県長浜市西浅井町で2016年に設立したグループであり、兼業農家として米作りを通じて一次産業のネガティブなイメージを変え、地域社会全体を盛り上げることを目指している。街中で羽釜と薪を使って炊飯し、おにぎりを振る舞う「ゲリラ炊飯」や、田植えや稲刈りを体験できる農業イベント、子ども食堂へのお米の提供や、学校での講演を通じて、食育や農業の楽しさ、地域の魅力を広め、次世代へ繋げることを活動の意義としている。SNSやYouTubeを通じて情報発信し、地域や農業の価値を高めながら、未来の担い手を育成する基盤を築いている。</p>

令和6年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動概要
優秀賞	水産庁長官賞	女性地域社会参画部門（個人）	鳥取県	境港市	井本 慶子	2004年に境港に帰郷、水産庁の出先機関にて臨時職員として勤務したことがきっかけとなり、以来20年間水産業界での仕事を続けている。当初は行政の立場として、その後の17年間は漁業者として漁業における資源管理に関わるとともに鳥取海区漁業調整委員や水産政策審議会の特別委員を務めてきた。現在は山陰旋網漁業協同組合に所属し、参事として組合業務全般に携わっている傍ら、地域の教育現場等でこれまでの経験を活かした魚食普及活動等も行っており、現在の役職や立場はこれまでの業務に対する姿勢が認められた結果であり、水産業界での女性活躍のロールモデルとなっている。また水産庁の「海の宝！水産女子の元気プロジェクト」に参加し、女性活躍を推進してる。
優秀賞	林野庁長官賞	女性地域社会参画部門（組織）	宮城県	富谷市	特定非営利活動法人 SCR （代表 村上 幸枝）	自分たちの住む地域の森林を守る必要性を多くの人たちに知ってもらうために、森林整備、木育活動（間伐材を利用した木工教室）、ミツバチの住む里山づくりなどの活動を展開している。ミツバチの住む里山づくりでは、里地里山を借り、休耕田を耕起し、ヤブになっている里山の林縁を刈り払い整備することで、クマとヒトとの緩衝地帯を創出し、ミツバチの巣箱をクマによる獣害からも守っている。企業ボランティアとともに、蜜源となる花の確保を目的として休耕田に作付けた植物が春から夏にかけて咲き誇り、地域景観の改善にもつながっている。また市内中学校の環境教育の場としても活用しており、農福連携事業として次のステージへと展開している。
優良賞	全国農業協同組合中央会長賞	女性地域社会参画部門（個人）	北海道	厚沢部町	佐藤 美登子	1985年、夫の家業を継ぐ形で営農を開始するとともに、JA新はこだて厚沢部地区女性部部員として活動を開始し、味噌・漬物などの加工品づくり・販売活動、伝承料理の継承活動に取り組んでいる。また、町の女性農業者同士の交流の場を定期的に設け、JAや町内部の委員会活動を通して得たノウハウを他の女性農業者へ積極的に共有するとともに、女性農業者が持つ不安や悩みの解消に取り組むなど、女性組織の中心的存在として活躍している。厚沢部町農業委員、JA新はこだての女性部部长、厚沢部町総合計画策定審議会委員、北海道農協米対策本部委員等を歴任し、地域農業の発展と男女共同参画社会の推進に貢献している。
優良賞	全国漁業協同組合連合会長賞	女性地域社会参画部門（組織）	福岡県	柳川市	両開漁業協同組合 女性部 （代表 田中 恵美子）	両開漁業協同組合女性部では多くの部員がノリ養殖業の重要な担い手として、自家海苔の生産加工に専念しなくてはならない状況であり、活動の幅を広げるきっかけを探していた。1983年頃から板海苔生産の過剰供給により価格が下落し、生産した海苔の原価割れ、焼却処分など苦しい状況となった。そのような中、女性部員たちは、苦勞して生産した海苔をどうにか有効活用する方法がないか考え、ノリ原藻を用いた佃煮を製造し、付加価値向上を図ると共に板海苔以外の新たな商品として販売する取り組みに挑戦。この挑戦を通じ、女性が技術を磨き、自分たちの意見を反映した商品開発、製造、事業化を成功させ、女性のやりがいと能力を発揮できる環境をつくりあげた。そして、様々な人との繋がりが活動の幅を広げ、結果としてノリ生産者に対する経済的な支援、地場産業と雇用の創出を実現することが出来た。
優良賞	大日本水産会長賞	女性地域社会参画部門（組織）	大分県	佐伯市	株式会社 漁村女性グループめばる （代表 小谷 晃文）	「漁村女性グループめばる」は、家族が獲った美味しい魚をもっとみんなに食べてほしい（魚食普及）、高く売りたい（魚価向上）、漁村女性が働く場所を作りたい（女性活躍推進）、地域を元気にしたい（地域活性化）の4つを目的に、2004年に漁師の妻達が集まりスタート。最初はトラックに水槽を乗せ、70km離れた大分市内で活魚を販売しましたが、「活きが良く美味しそうだけど、捌けないから。」との声を聞き、加工業へ活動をシフト。漁家に伝わる郷土料理「ごまだし」に目を付け瓶詰めを商品化。県や全国の品評会で最優秀賞を受賞し、全国販売に至る。代表は2代目の男性に交代するも、作り手や企業理念など活動内容が変わらないため社名もそのまま活動中。

令和6年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動概要
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性地域社会参画部門（個人）	熊本県	合志市	福嶋 求仁子	2004年に就農し、アスパラガスや水稻などを栽培。JA菊池の合志地区女性部長を務めたことを契機に合志市農業委員に就任し、現在6期目。5期目には女性として初めての合志市農業委員会会長を務め、現在に至る。農地を維持・管理していくためには女性視点での意見が必要だと考え、常に発信することを意識しつつ実践している。その他、熊本県及び合志市農業女性アドバイザーやくまもと農業委員女性委員の会会長など、数多くの役職を積極的に引き受け、任務を全うしてきた。さらには、子どもたちへの食育活動や農産物直売朝市、食文化継承活動においても大いに活躍し、地域農業の発展や女性の地位向上に貢献し続けている。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性地域社会参画部門（個人）	宮城県	気仙沼市	三浦 悦子	夫の両親からプロイラー経営の継承を打診され、1985年に就農を決意。2001年に認定農業者となり経営を主導し、夫と二人三脚で安定した経営を実現した。同年、本吉町（現気仙沼市）農業委員会初の女性委員に（合併後は市初の女性委員）、2005年には町議会議員となり、女性の視点や発想を生かして町政に参画した。さらに、みやぎアグリレディス21（県内女性農業委員による組織）の副会長として女性委員の育成に力を注ぐとともに、県内女性農業委員が不在の市町村をゼロにするなど男女共同参画の推進に貢献した。また、宮城県農村生活グループ連絡協議会の会長も歴任し、女性のネットワークづくりや社会参画活動をけん引した。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性地域社会参画部門（組織）	山梨県	南アルプス市	山梨きら星ネット （代表 齊藤 眞知子）	本団体は、山梨県が農村リーダーを育成するために実施した研修会の修了生を母体として、2007年3月に設立した女性農業者グループである。県内全域に30代～80代の会員40名が在籍しており、山梨県の農業者間のネットワークを広げ、会員相互の資質向上と親睦を図ることを目的に活動している。活動内容としては、研修会や勉強会の開催、先進地事例視察の実施、イベントへの出展など、多岐にわたり、農村女性リーダー育成を活動的に行っている。山梨県は地域ごとに農業環境に特色があり、果樹を主軸とする地域、高原野菜や穀物に力を入れる地域、花き生産や酪農が盛んな地域など、多種多様である。このため、地域の課題を解決するために、本団体では地域内外での情報交換を通じてお互いの理解を深めている。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性活躍経営体部門	千葉県	富里市	株式会社 アグリシアJAPAN （代表 津田 乃梨子・津田 壮一郎）	株式会社アグリシアJAPANは、親元就農し経営移譲を受けた津田乃梨子氏と夫の壮一郎氏が2021年に共同代表となり設立。乃梨子氏は経理・販売関係を主に、夫は生産管理を主に担当している。従来の露地野菜に加え2022年よりいちご生産を新規導入し、付加価値を付けた販売をするため直売所の設置と加工品の商品化を行い、事業拡大とブランド化を進めた。女性スタッフを積極的に雇用し定着・活躍できる組織を作るため、育児・介護等に配慮した柔軟な勤務制度、働きやすい職場環境を整え、研修参加や資格取得を支援、やりがいを持って仕事に取り組めるようにしている。収穫体験や地域のいちご生産者等と連携した取組や多様な情報発信で地域の農業振興に貢献している。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	若手女性チャレンジ部門	埼玉県	さいたま市	合同会社 十色 （代表 サカール 祥子）	十色は「畑はエンターテインメント！」がコンセプトの農業法人であり、「見沼田んぼを活用した農業で、様々な人が活躍する場をつくりたい」という思いが一致したことがきっかけで女性3人で起業。とうがらし専門農園「十色とうがらしファーム」事業と、「十色の農業体験」事業を行っており、見沼田んぼの環境を次世代に残すため、有機JAS認証取得に向けた栽培を行っている。また事業を通じてたくさんの人が見沼田んぼの農業に触れる機会を作っている。誰もが働ける環境づくりとして、障害福祉や生活困窮者支援の団体と連携した業務委託や臨時雇用、短期短時間のパート職員の雇用など、さまざまな働き方を進めている。